

## 九州歯科大学第六八回卒業式

### 式辞

今年度の卒業式は、世界中に広がりを見せている新型コロナウイルス感染の国内での発症状況を鑑み、卒業証書・学位記の授与を、簡素な形で執り行います。

さて、歯学科六八期生および口腔保健学科七期生の皆さん、卒業おめでとうございます。今日の皆さんは、卒業証書・学位記を手にして、入学時から今日まで過ごした大学での思い出がつぶさに蘇り、感無量のことと思います。送る立場の我々教職員も、歯科医療の世界で、明日から君たちが澁刺として活躍する姿を思い浮かべ、社会に貢献する歯学士および口腔保健学士に育て上げたという安堵感とともに、本学で培った歯科医療に関する知識・技術・プロフェッショナリズムの精神をもって、これからの厳しい実社会での成功を切に願っています。

九州歯科大学は、2015年の10月に、あらたに九州歯科大学憲章を制定し、これまでの三つの基本理念に加え、六つの教育研究目標を掲げ、実践的な歯科医療人の育成教

育の推進を加速すべく、教育改編を開始しました。この九州歯科大学憲章の前文には、「平成26年の創立百周年を機に九州歯科大学は、次なる世紀に向けて患者中心の歯科医療が提供できる人材の育成を第一義に掲げ、学生、教員、職員の三者が一体となって、理念の共有と目標の実現を目指します」という文言が綴られています。本学で学修してきた皆さんは、大学を卒業後、あらたな組織の一員として生きていくこととなりますが、いかなる状況にあっても、本学での教えを基盤にして、常に高い志と向上心を忘れることなく、生涯研修に励んでください。そして、様々な局面で自らに課題を課し、培ってきた知識と技術ならびに高い倫理観をもって行動する社会人になることを切に願っています。

古き良き伝統を有する九州歯科大学は、設置団体の福岡県の温かいご支援のもとで、これまで通り、歯科医療界を牽引する実践的歯科医療人を育成していくことに変わりはありません。2014年5月の創立100周年記念式典での寄附をもとに設立された九州歯科大学基金を活かし、九州歯科大学はあらたに Global and Local Academic Collaboration を掲げ、アジア諸外国との教育連携を幅広く展開してきました。君たちのなかには、この活動の一つ

である国際連携推進事業のもと、タイ及び台湾で研修し、海外派遣プログラムの単位を取得した学友がいるかと思えます。さらに、昨年から今年にかけて、第三期中期計画のもと、あらたに開設した講堂内の食堂におけるラーニングコモンズカフェ及び図書室内のグループワークスペースなども、君たち卒業生諸君は大いに活用してくれたものと思っております。このように、Think globally, act locally という考え方のもと、次なる歯科医療を見据えて改編を進めている九州歯科大学教育プログラムのもとで修学したということを中心に刻み込み、歯科医療人としての一步を力強く踏み出すことを強く望みます。

近年、医療改革の流れのなかで、我が国では、2025年を目途に「地域包括ケアシステム」が展開されます。そのなかで、我々歯科医療人は、これまでの歯科診療所での医療に加えて、多職種連携を通じて、地域住民の健康増進に貢献することが強く求められます。九州歯科大学は、このような歯科医療を取り巻く環境の変化をいち早くとらえ、歯学教育を改編してきました。そのようななか、今年度の卒業生は、臨床実習のなかで、本学附属病院以外に、医科総合病院や介護施設での臨地実習を通じて、歯科医師と歯科衛生士からなるオーラルヘルスチームとしての活動の重要性を実感したと思えます。このような体験を通じ

て得たものを大事にして、実社会の医療の現場で、メディカルチームと一体となって多職種連携を展開することができる優秀な人材となることを願っています。

九州歯科大学は、2016年10月、歯科医療人の知識と技術、歯科医療に向かう心を高めていくという視点に立って、口腔保健・健康長寿推進センター（通称、DEMCOPセンター）を開所しました。九州歯科大学は、このセンターを通じて、地域歯科医療に従事している歯科医師・歯科衛生士のリカレント教育を展開してきました。それに加え、在校生が卒業後に、スムーズに日常の歯科診療に臨めるように、臨床教育を充実してきました。しかしながら、今日、卒業する歯学科及び口腔保健学科の皆さんは、これから先、常に生涯研修を忘れることなく、今後、大学に眼差しを向けて根拠に基づく地域医療(Evidence-based dentistry)を展開してください。九州歯科大学は、生涯教育という視点で、今後も社会貢献を継続していきますので、常に地域に根差し、地域住民のことを考える Public dentist 及び Public dental hygienist として、大学とともに、歩んでいくことを切に願っています。

むすびに、次世代のニューリーダーとして歯科界を牽

引していく卒業生諸君に、世界的に著名な経営思想家 P. F. ドラッカーの「効果的なリーダーシップの基礎とは、組織の使命を考え抜き、それを目に見える形で明確に定義し確立することである。有能なリーダーとは、目標を決め、優先順位を決め、基準を定め、それを維持する者である。」という言葉を伝え、国内外で広く活躍する歯科医療人となることを心から祈念して、私からの式辞とします。

令和二年三月十二日

九州歯科大学

学長 西原 達次